

# 要望書

大山駅周辺地区は、東武東上線大山駅を中心に、活気とにぎわいのある商店街が広がり、病院・文化会館などの公共公益施設が多数立地するなど、利便性が高く非常に魅力のある地区である。

その一方で、地区内のすべての踏切は、ピーク時一時間あたりの遮断時間が四十分以上のいわゆる「開かずの踏切」であり、これらの踏切は、交通渋滞の発生や踏切事故の危険性、市街地の分断など、まちの魅力低下の一因となっている。

連続立体交差事業は、多数の踏切を同時に除却することによって、これらの課題を一挙に解消するとともに、道路ネットワークが形成されることによる交通利便性や防災性の向上など、地域の活性化に資する非常に効果の高い事業である。

大山駅付近の連続立体交差事業については、本年四月に国土交通省により、着工準備採択を受け、その実現に向けて地域の期待も高まっている。

また、板橋区においても、連続立体交差事業の実現を見据え、本年三月に「大山駅の駅前広場構想」を策定しており、今後も区民と一丸となり、大山駅周辺地区の総合的なまちづくりの推進に向けて取り組んでいく。

安心・安全で快適なまちの実現には、鉄道の立体化が不可欠であり、東武東上線大山駅付近の立体化の早期実現にあたり、次の事項について特段の配慮を要望する。

- 一 東武東上線大山駅付近の連続立体交差事業を高架式か地下式かの構造形式にかかわらず、早期実現を図ること。
- 一 連続立体交差事業の推進に必要な財源を確保すること。
- 一 連続立体交差事業にあわせて区が進める大山駅周辺の整備事業に対し、必要な支援を講じること。

平成二十九年十月十八日

東武東上線大山駅付近立体化促進協議会

会長

坂本

健



東京都知事 小池 百合子 様